

# 福祉 みやぎ

2024 / 11月号 vol.636

## CONTENTS (主な内容)

### P2 特集

みやぎの地域共生社会の実現を目指して  
令和6年度 第1回宮城県地域共生社会推進会議を開催しました

### P4

Heart&Works (ハート&ワークス)  
障害者×アート×デザインが生み出すこれまでにない  
就労支援事業所の仕組み  
障害者の「好きなこと・やりたいことを仕事にする」

### P6

グッジョブFUKUSHI  
人材確保戦略の一つに！  
「日本語学校」「介護福祉士養成施設」「介護施設」の  
三者連携による外国人介護人材の受入れ

### P8

ちいさをつなぐ  
「広がれボランティアの輪」連絡会議30周年記念  
「ボランティア全国フォーラム2024」が開催されました

### P10

県社協ってこんなことやってます  
東北中国帰国者支援・交流センター

### P11

シニアだより  
宮城いきいき学園の活動紹介 気仙沼・本吉校編

### P12

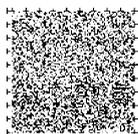
県社協掲示板

事業所名 就労継続支援 B 型事業所

アトリエ・アンヌンIV仙台(仙台市若林区)

タイトル オータム

アトリエ・アンヌンから生まれる原画にデザイナーがデザインを付加しました。秋をテーマに出来上がったアート作品です。



# みやぎの地域共生社会の実現を目指して

令和6年度 第1回宮城県地域共生社会推進会議を開催しました



令和6年8月20日に開催した宮城県地域共生社会推進会議（以下「本会議」という）は、令和4年2月に宮城県と本会が共同して立ち上げたプラットフォームで、今回で5回目の開催となりました。

本会議は、県内の取組事例を通じて「地域共生社会に係るイメージの共有」を図ることを目的にオンラインで開催したものです。

## 概要説明

### みやぎの地域共生社会の実現に向けて

はじめに本会議の会長である村井嘉浩宮城県知事（代理：志賀保健福祉部長）から御挨拶いただき、次いで、宮城県保健福祉部社会福祉課の相原課長が概要説明を行いました。

■ 地域共生社会の構築に取り込む背景として、人口減少、少子高齢化、核家族化などにより、家族や地域とのつながりが希薄化し、助け合う力が弱まっている状況がある。

■ 社会福祉法改正に伴い、市町村が複合・複雑化した支援ニーズに対する「断らない包括的な支援体制」を整備するため、重層的支援体制整備事業（以下「重層事業」という。）が創設された。

■ 本会議では、地域共生社会の実現に向けた取組を推進させるため、事例報告を通じて構成団体（行政、市町村、福祉関係団体）相互の取組の共

有、連携体制の構築などができるように県としても全面的に支援していく。

## 事例報告

各団体から地域共生社会の実現につながる取組として御報告いただき、東北学院大学地域総合学部教授 増子氏に総評として各発表のポイントをまとめていただきました。

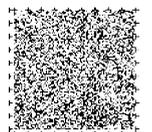
## 主な発表内容 ①

千葉 拓也氏



● 特定非営利活動法人びいすかんぱにい 代表理事 千葉 拓也氏

子どもの頃、大人に怒られることが多く「自分だけ他の人と違う」と感じるようになっていた。そのようなときにジュニアリーダーに出会い、キャンプなどの野外活動を通じて色々な人と関わることの大切さを知り、人と関わっても良いことを学んだ。このことが、現在の活動の原点になっている。この



経験をもとに育生事業のキャンプ、びいす食堂（コミュニティ食堂）、放課後児童クラブ事業を行っていて、新たな場づくりとして、LINK（中高生と大人がつながる場）、たくらむ会（大人同士のつながりの場）を立ち上げている。

この活動は一人一人が生きていくための力（人間力）を身に付けることを目的としている。活動を通じて、人と人がつながることの大切さを知り、自分の気持ちを素直にぶつけられるような人になってほしい。そういう人が世の中を変える担い手になっていくと思っている。

## 主な発表内容 ②

佐藤 寛子氏



● 社会福祉法人巨理町社会福祉協議会  
係長 佐藤 寛子氏

令和2年に巨理町社会福祉協議会（以下「巨理町社協」という。）は経営悪化に伴い、早急な立て直しが必要な状況になった。立て直しにはこれまで以上に地域のニーズを受け止め、巨理町のニーズに合ったやり方で運営すること

が大切なことから、地域福祉活動計画の策定を行った。職員が一つ一つ文章の確認を行いながら作り上げた計画を、冊子がポロポロになるほど確認しながら業務にあたっている。令和3年度から民生委員の事務局を町から受託したことで、巨理町社協にさらに住民の声が集まるようになり、人や関係機関とのつながりもより強固なものになってきている。

少しずつ職員の意識も変わり、相談された時に断らずに受け止めて対応できるようになったことで、住民から頼りにされる社協に変わりつつある。今後も人とのつながりを絶やさずに関わりを持ち続けることを意識し、さらに強みのある社協を目指していく。

## 主な発表内容 ③

相原 幹司氏



● 宮城県保健福祉部社会福祉課  
課長 相原 幹司氏

重層事業の意義は、制度や仕組みから生まれる支援のしづらさを少しでも改善し、生きづらさを抱える人の生活

を支援することである。県内市町村の重層事業の取組状況として、令和6年度は仙台市と涌谷町で実施しており、移行準備事業を3市1町が実施する予定である。

重層事業は地域共生社会の実現に向けた包括的な支援体制を構築するための一手法となる事業であり、新たな受け皿を確保することが目的ではなく、既存のものをうまく活用する方法もある。

県内35市町村それぞれ人口や高齢化率、地域の強み、課題など状況が異なることから、役所のみならず関係機関と協議しながら「わが市町村ならではの」重層事業の実施に向けて検討することが重要である。

## 総評

増子 正氏



● 東北学院大学地域総合学部  
教授 増子 正氏

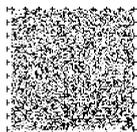
NPO法人びいすかんぱにいの取組は、世代や分野、支え手受け手を超えて、新たな関係を作っていく可能性を秘め

る地域共生社会の構築に向けた取組になっている。巨理町社協の取組は、様々な事業を通じて相談が集まり、世代や世帯の関わりが増えていき、それが関係機関とつながり、課題を解決していく。まさに従来の社会保障だけでは対応できない地域福祉に向き合う姿になっている。宮城県の発表は、地域によって特徴が違うことから35パターンのやり方で、自由に宮城バージョンの重層事業を作っていくことが分かった。

今後本会議では様々な事例を共有し、宮城バージョンの共生社会を作っていきたいと考えている。また、宮城県内で無理なく重層事業を実施できるように情報共有していくことも検討していきたい。

## まとめ

今後、本会議では本会議を通じて、様々な主体による地域共生社会の実現に向けた取組の情報共有を行うことで、県内での取組がさらに活性化するように努めていきます。



# Heart & Works

## 障害者×アート×デザインが生み出す これまでにない就労支援事業所の仕組み

ブランドANNOUNを展開し、アートを通して障害者の社会参加を支援するクオリティー株式会社は、就労継続支援B型事業所「アトリエ・アンノウン」を埼玉県内の3か所で運営しており、令和6年4月に東北エリア初となる「アトリエ・アンノウンⅣ仙台」を仙台市若林区に開設しました。今回はクオリティー株式会社代表の澤本義一さんとアトリエ・アンノウンⅣ仙台のマネジャーの朴澤芳昭さんにお話を伺いました。



▲アトリエ・アンノウンⅣ仙台 外観

ANNOUNと  
アトリエ・アンノウンについて

澤本さん

ANNOUNは「障害を持つ方々の描いた絵を原画にし、デザインを付加し、販売していくこと」をコンセプトに立ち上げたブランドです。原画公募の際に、特別支援学校の先生や絵を頂いた方の保護者などから、

絵を描くことを仕事にできないかとの声があがったことが、ANNOUNの原画を描くための働く場所「アトリエ・アンノウン」を立ち上げるきっかけになりました。立ち上げにあたり、就労環境を調査していく中で、障害者のやりたいことや好きなことが就労につながっていない現実を目の当たりにし、絵が好きだったら働く選択肢の一つにしてほしいという想いから、「好きなこと・やりたいことを仕事にする」をアトリエ・アンノウンのコンセプトとしました。

### 特徴について

澤本さん

アトリエ・アンノウンで利用者が描いた原画に、ANNOUN専属のデザイナーがデザインを付加し、生産販売を行い、ANNOUNから利用者へ作品への対価（工賃）が支払われる、就労支援事業所とブランドが

タッグを組んだ、新しい就労環境の仕組みです。絵が得意でなくとも「絵を描く

ことが好き」であれば就労を目指す環境を提供しています。また、利用に際し、障害の種類は限定していません。

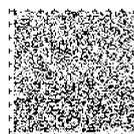
### 就労された方々の仕事に対する反応や変化について

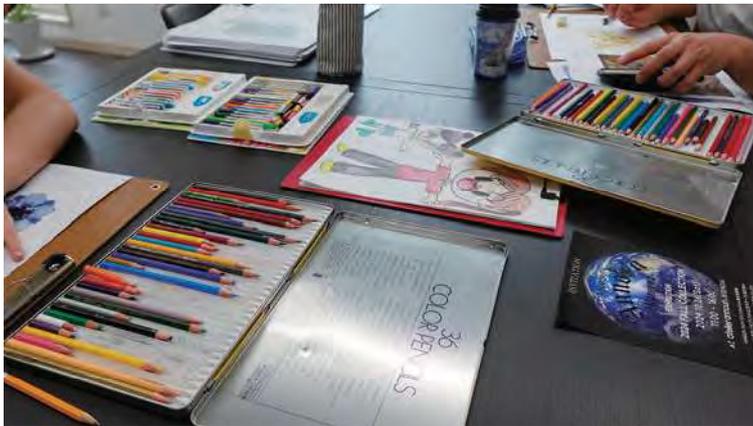
朴澤さん

好きなことを仕事としているため、日に日にデッサン力や色彩が豊かになっていくように感じます。のびのびとした環境の中だから、リラックスマンして描くことができていると思います。

澤本さん

特別支援学校に通っていた時には学校を休みがちであった方が就労してからは皆勤であったり、集中することが苦手な方が仕事に集中して取り組んでいたりと、良い変化がたくさん





▲作業の様子

んありました。他にも、利用者や保護者から「描いたものが作品になること」に対し、達成感ややりがいがあるとの声を頂きます。自分がデザインした服を街の人が着ていたり、自分のデザインが塗装された車が街を走っていた時などの嬉しさが、達成感ややりがいにつながっていると思います。

### 最後に

朴澤さん

アトリエ・アンノウンでは毎月第2土曜日に体験見学会を実施しています。絵を描くことに興味がある方は是非足をお運びください。

澤本さん

絵を描くことが好きな障害者



▲デザインが施された送迎車

の作品が多くの人々の目に、良い作品として映るようになってほしいです。是非、好きなことを仕事にしている方の姿を見にお越しください。



▲アトリエ・アンノウンⅣ仙台で支援する職員の皆さん（中央：朴澤さん）

### アトリエ・アンノウンⅣ仙台

住所 宮城県仙台市  
若林区伊在1丁目11番3

電話 022-369-3943

## 宮城県内の福祉施設・介護事業者向けの総合補償制度

# 宮城県地域福祉総合補償制度をご利用ください

### ポイント1

社会福祉協議会の会員である社会福祉施設、介護サービス事業者が加入できます。

### ポイント2

地元宮城県で加入手続き・事故対応・その他アフターフォローを行いますので安心です。

### ポイント3

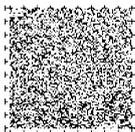
団体制度のため、有利な団体割引が適用されております。（一部適用外）

### お問合せ

社会福祉法人宮城県社会福祉協議会  
三井住友海上火災保険株式会社  
株式会社オンワードマネジメント

TEL022-225-8476  
TEL022-221-3171  
TEL022-762-9915

※この制度の各補償は宮城県社会福祉協議会が保険会社と締結した保険約款により行います。



オンワードマネジメントのサイトにリンクします。

# グッジョブ FUKUSHI

このコーナーでは福祉に関する仕事や団体などについて紹介します！

## 人材確保戦略の一つに！

### 日本語学校 介護福祉士養成施設 介護施設 の 三者連携による外国人介護人材の受入れ



▲東北多文化アカデミーの八重樫さん

厚生労働省より、2026年度に必要な介護職員は全国で約240万人であり、約25万人の不足が見込まれると公表されました。そのうち、宮城県で必要な介護職員は2026年度で37,488人（不足1,802人）、2040年度は43,502人（不足7,055人）です。介護業界における人手不足は今後も深刻であり、中長期的な対策が求められています。

そこで、今回は一般社団法人東北多文化アカデミーの外国人介護人材育成チームリーダー八重樫伸一さんを取材し、東北多文化アカデミーで実践している外国人介護人材の受入・育成の取組を紹介します。

#### 外国人介護人材受入れの4つの制度

	EPA (経済連携協定)	在留資格 「介護」	技能実習	特定技能1号
制度趣旨	二国間の経済連携の強化 ※インドネシア、フィリピン、ベトナム	専門的・技術的分野の外国人の受入れ	国際貢献としての本国への技能移転	人手不足対応のための一定の専門性・技能を有する外国人の受入れ

※詳細は「外国人介護人材受入れの仕組み」/厚生労働省を参照してください。

#### 三者連携による仕組み

わが国の外国人介護人材受入れには、現在、4つの制度があります。東北多文化アカデミーで実施しているのは、そのうち「在留資格「介護」」に当たります。一定レベルの日本語能力があり、介護職へ高い志を持つ外国人に、3つの機関「日本語学校」

「介護福祉士養成施設」「スポンサー（後の就職先となる介護施設）」が連携し、留学から就職までサポートします。現地での声掛けや仲介、入国までの手続きは東北多文化アカデミーが担い、スポンサーとの面接は現地又はリモートで行います。

来日後の流れは、①日本語学校

（東北多文化アカデミー）に半年～2年修学→②介護福祉士養成施設（学校法人北杜学園 仙台医療福祉専門学校）を受験し、2年修学（2年次に介護福祉士国家試験受験・資格取得）→③スポンサーである介護施設に就職となります。

#### 互いにWin-Winの関係

特徴は、最初から進路（2つの修学先と就職先）が決まっていることで、留学生は安心して来日できるものと思います。また、留学期間の学費や生活費は、宮城県社協の介護福祉士修学資金の借入や県の助成金、スポンサーからの貸与、アルバイトで賄われ、生活設

